

2012年7月11日

株式会社川島織物セルコン

渋谷の新ランドマーク 東急シアターオーブ（渋谷ヒカリエ内）

ル・コルビジェ緞帳を 1/5 サイズに製織

50年の時を経てタペストリーに再現

川島織物セルコン(本社:京都市左京区 社長:中西正夫)は、渋谷ヒカリエ内にオープンする「東急シアターオーブ」に設置される ル・コルビジェ のタペストリーを製織しました。

このタペストリーは、渋谷ヒカリエの前身である東急文化会館のオープン時(1956 / 昭和 31 年)に、館内最大の映画館「パンテオン」に掛けられる緞帳として、当社が納入したものをタペストリーに再現したものです。東急文化会館の閉館にあわせ、会館関係者の「巨匠ル・コルビジェとその弟子 坂倉準三、両氏の想いが詰まった、また、渋谷という街を見守ってきた緞帳への想い」を伺い、1/5 サイズのタペストリー製作を提案、今般の製作が実現しました。



本作品の製作は、①(原画ではなく)緞帳の再現である ②1956年納入作品のプロジェクトの復元である という二点が大きなポイントとなりました。緞帳の再現には、製作当時のデザイン、素材(糸・染料)、製織方法などについての詳細なデータが必要になりますが、50年以上前のプロジェクトであるため詳細な資料が残っておらず、また、製作担当者は全て退職しているため、製作を担当したOBからのヒヤリング情報と、現物の入念な調査から、緞帳のデータを収集しました。またデザインについては、当時の緞帳の230分割画像を撮影、それらの写真を合成し、デザイン画を作製しました。

当時の緞帳は大変立体感のある織物で、様々な織技法を取り入れた手の込んだ手法で作られたものであることがわかりました。本作品は緞帳の約1/5のサイズで、その風合いを再現する必要があるため、緞帳製作などに用いる「綴織」を採用、糸種や色に工夫をこらしたり、数種の経糸密度を効果的に配置するなどし、精巧に再現しました。

ル・コルビジェ、坂倉準三という二人の巨匠のプロジェクトへの参画、また、その想いを再びこのような形で表現する機会を与えて頂いた東京急行電鉄株式会社様に感謝すると共に、次代への技術継承に努めていきます。

概要

渋谷ヒカリエ 東急シアターオーブ タペストリー

寸法：幅 4.8m 高さ 2m

納入：2012年7月

原画：ル・コルビジエ「闘牛14号」



織下絵製作



製織

東急文化会館 パンテオン 緞帳

寸法 幅 23.6m 高さ 9.8m

納入 1956年(昭和31)

原画 ル・コルビジエ「闘牛14号」



1956年当時の製作風景

このリリースに関するお問い合わせ

当リリースについて：企画・管理部 経営企画・広報グループ

TEL:075-741-4316

当リリースは、京都経済記者クラブ、国土交通記者会、国土交通省建設専門紙記者会に配布し、当社ホームページでも発表しています。川島織物セルコンは、LIXILグループの一員です。